

メディアリテラシー教育 効果測定プロジェクト

◆プロジェクトの背景概要

インターネット・SNSの発達や、一人一台端末の活用が進む現代において、情報源の信頼性や情報の真偽を判断し、情報化社会をたくましく生きるために、メディアリテラシーを身に付けることへの重要性は高まっている。戸田市では、ICTの責任ある主体的利用と、その先にある情報社会を築く市民としての資質・能力の育成を目指すため、令和4年度からスマートニュース メディア研究所と連携した教材作成や研修を実施している。

◆令和5年度プロジェクト概要

令和4年度のプロジェクトを継続し、市内小学校（1校）の5年生に対して、メディアリテラシー教育の授業（教科授業4回、特別授業3回）を実施した。授業案は、昨年度の取組を踏まえ、弘前大学・森本洋介准教授、東京学芸大学・中村純子准教授の協力のもと、新たに作成した。授業は教科（国語・社会・算数・道徳）授業案に基づき、プロジェクト実施校の教師と森本准教授が実施した。



【国語】

「想像力のスイッチを入れよう」（光村図書）を受けて授業案作成

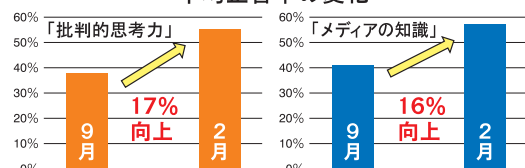
ニュースの記事について、授業で学んだ「**即断しない、鵡呑みにしない、偏らない、中だけ見ない**」という4つの視点を生かし、情報を吟味した。話し合いを通じて、情報を「正しく」疑う姿が見られた。また、日常の授業でも、情報を吟味し、情報を受け取る際に一度立ち止まって考える児童の様子が多く見られた。

◆令和4年度効果測定について

メディアリテラシー教育の授業を実施し、授業の実施前後でメディアリテラシーについての効果測定テストを行った結果以下のことが分かった。

- メディアリテラシーの要素として重要な能力である、批判的思考力（クリティカル・シンキング）、メディアに関する知識の獲得の度合いが伸びていた。また、学力調査の結果と照会し分析したところ、以下のことが分かった。
- 国語・算数の結果が高い児童・自己効力感の高い児童のメディアリテラシー能力の伸びが良い。
- メディアリテラシー能力と、学力や自己効力感に相関の強さがあることが見られた。

平均正答率の変化



参考：プレスリリース スマートニュース「埼玉県戸田市と共同でメディアリテラシー教育の効果を測定」

令和5年5月24日



令和5年度戸田市立教育センター研究員全体研修会

〈講演テーマ〉

生成AI時代に求められる真の読解力とは

国立情報学研究所 社会共有知研究センター長
情報社会相関研究系 教授 新井 紀子 氏

令和5年9月1日（金）、令和5年度戸田市立教育センター研究員全体研修会をオンラインで開催しました。各研究グループに加え、管理職及び市内各小・中学校の先生方、教育委員会事務局、120名近い参加者が集まり、生成AI時代に求められる真の読解力について研鑽を深めました。



戸田市リーディングスキルフォーラム

令和5年11月22日（水）、初の試みとして戸田市リーディングスキルフォーラムを対面とオンラインのハイブリットで開催しました。市内各小・中学校の校長、教頭、教師をはじめ、県内外の各界から総勢200名が参加し、「真の読解力」について研鑽を深めました。

I 部

【パネルディスカッション】「先進自治体のRST活用の実践」

RSTを活用した実践を先進的に取り組んでいる新潟県燕市教育委員会、福島県相馬市教育委員会に御協力いただき、両市でこれまで積み上げてきた実践や新たに行っている取組について御紹介いただきました。

II 部

【講演】「生成AI時代に求められる真の読解力とは～RSTを活用した読解力の育成について～」

講師：国立情報学研究所社会共有知研究センター長 情報社会相関研究系 教授 新井 紀子 氏

上に記載のとおり実施した令和5年度戸田市立教育センター研究員全体研修会の御講演を踏まえ、これからの生成AI時代を生き抜くために求められる汎用的読解力の重要性やその育成について御講演を賜りました。

